

一人一人の現在と将来の 豊かな生活を実現する ために

～ キャリア教育の推進と
個別の教育支援計画の充実 ～



平成20年3月

『子どもは自立する力をもっている』

特別支援学校にお子さんを通わせていらっしゃる保護者の方から、「わたしがいなくなったら、この子はどうなるんでしょう」とか「学校にいる間はいいのですが、その後はどうなるんでしょう」という心配をお聞きすることがあります。

この気持ちは、親としては全くそのとおりで、どんな親御さんでも、心の中にはそんな思いがあるのではないのでしょうか。

でも、親としての心配は心配として、「この子にはこの子の人生がある。この子が決めることなんだ」と思い切ることも、お子さんを一人の社会人として、地域で生きる大人の一人として育てるためには、必要なことなのです。

これは、子どもを放っておきなさいと言っていることとは違います。子どもが一人で生きていける力を付けましょうということなのです。

子どもの「生きる力」を育てるには

「成長する力を信じる」

着替えや食事、学校に行く準備など、ついつい時間がないからと、親が何でも手伝ってやっていることはないでしょうか。

「今はできなくても、必ずできるようになる」と子どもの成長する力を信じて、根気よく、丁寧に(段階をふんで)、育てることで、身の回りのことが一人でできるようになります。

自分のことを自分でやれるようになると、自信が育ち、自分から行動できることが多くなります。

自分から

「一人でやりきらせる」

人には、それぞれやりやすい自分なりのやり方があります。それは、障害のある子ども達では、もっとはつきりとしています。

親から見ると、回りくどかったり、たどたどしいやり方であっても、その子の今の能力でできる一番良い方法なのかもしれません。

子どもが何かをしようとしている時、すぐに「ダメ」と言うのではなく「一人でやりきらせる」ということが子どもの学習能力を高めたり、責任感を育てたりすることにつながります。

自分で

「子どもの気持ちをささえる」

子どもの「がんばろう」という気持ちの源は、大好きなお父さん、お母さんに見てほしいという願いです。また、「お父さん、お母さん、大好き」という気持ちが、社会(学校)へ出て行くための力となるのです。

自分を認め、愛してくれる人がいるという事実が、その子が社会の中で自分らしくがんばるためのエネルギーになります。

子どもの気持ちを支えるのは、「子どもの悲しみや喜びに共感する」ことから始まります。

自分らしく

「サポーターをつくる」

「自立して暮らす」とは、自分でできる役割はしっかりと果たし、一人ではできないことは周囲の人に支援してもらいながら、地域社会の中で暮らす(共生)ことです。一人でも何かもやれなくてはならないわけではないのです。

大切なのは、地域社会の一員としての自覚と責任をもって、自分でできることは自分でやろうとすること、そして、できない部分は支援してほしいと伝える方法をもつことです。小さいときから、地域の人と接する機会を多くもてるようにしましょう。

暮らす

将来の生活を見通して、小さいときからしっかり育てることが必要

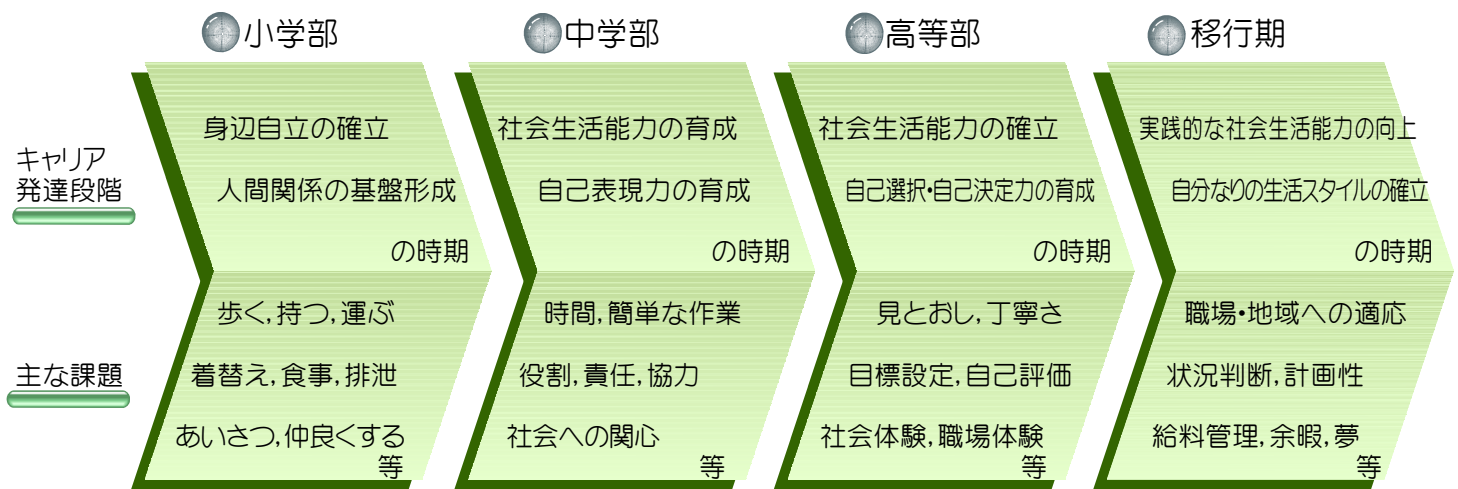
『一人一人のライフステージを支えるキャリア教育』

キャリア教育とは、「児童生徒のキャリア発達（人間が社会の中や自己の置かれた環境の中で、その時期にふさわしい能力を身に付け、成長する過程）を支援し、それぞれにふさわしいキャリア（役割や価値観）を形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育。児童生徒一人一人の勤労観や職業観を育てる教育」とされています。

言いかえると、ライフステージや発達段階に応じて求められている役割を果たそうとする意欲や具体的な力を育て、社会生活を主体的に生きる力を育てようということです。

障害の程度や状態、年齢にかかわらず、将来の生活を見通しながら、ライフステージに沿った支援を行うことが必要なのです。

《ライフステージに沿ったキャリア発達支援》



各学部におけるキャリア発達段階と主な課題を意識しながら、その学部にいる間に確実に達成できるようにする。または、どんな支援があればそれが可能なかを明らかにすることの積み重ねが、将来の目指す姿の実現につながります。

「働くこと」「職業に就くこと」は、
全ての人に大切なこと

障害のあるなしや、障害の程度にかかわらず、全ての人にとって「働くこと」「職業に就くこと」は、国民の義務であり、また、基本的な権利として大切なことです。

「働かせるのはかわいそう」と何もさせてもらえないことは、自分自身を認めてもらっていないことと同じなのです。

「働くこと」は経済的な利点以上に、生活の質（QOL）の向上（よりよく生きる）のために必要です。

「この子に就職は無理」と諦めないでください。

「この子は将来、地域で働き、地域で暮らす大人になる」という視点で、「できる仕事」「できるようになる支援」をみんなで考えましょう。

～ 子どもを「働ける人」として見るのが大切 ～

就職するために最も必要なことは
本人の「働く意欲」と「態度」

県内の特別支援学校の各学部主事と進路指導主事の先生方に行った調査(2006)により、就職するために最も必要なことは、「学力」でも「作業能力」でもなく、「本人の働きたいという気持ち」であるということが明らかになりました。

《就職・就業するために必要だと思われること》

第1位

- 働く意欲や態度を身に付けていること
- 休んだり遅刻したりしないこと

第2位

- 働くことに見合った体力があること
- 安全に気を付けること
- ルールやマナーを守ること

第3位

- 規則正しい生活が送れること
- あいさつや返事ができること

『個別の教育支援計画は、本人，保護者が主役』

現在、全ての特別支援学校で作成されている個別の教育支援計画は、本人、保護者の願いや思いを学校・福祉・医療・労働等の関係機関が連携して実現させることが目的です。

年度や学期の節目には、学校から、個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成や評価について、面談等で話があると思います。

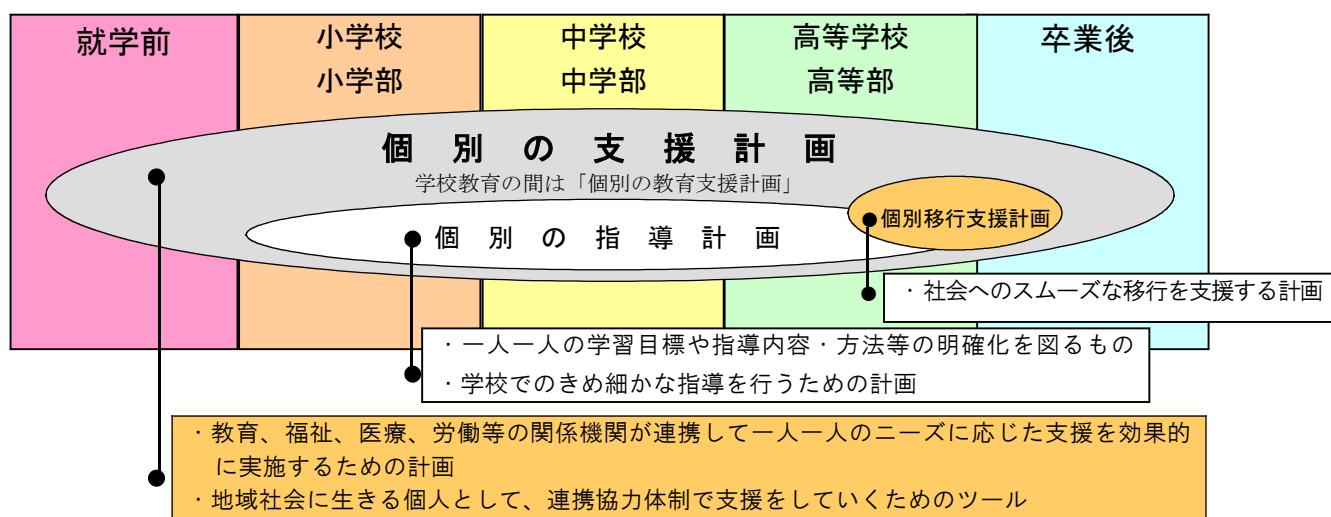
そういう時に「学校に全てお任せします」「まだ小さいのでそのうち考えます」等ではなく、ご自身の願いや思

いをぜひ話して下さい。

遠い将来のことはだれにもわからないのは事実です。しかし、遠い将来も毎日の積み重ねの先に訪れるのです。子ども達は、ゆっくりではありますが、毎日確実に成長し、卒業の日は思っているよりずっと早く訪れます。

「小学部卒業までにはこんなことができるといいね」「学校を卒業したら、こんなお仕事ができるといいね」と、夢や目標を子どもと話し合えるようになるために個別の教育支援計画を活用して下さい。

《生涯にわたる支援を実現する個別の支援計画》



<個別の教育支援計画作成の準備（家庭）>

- ①子どもの将来像について、家族の中で話題にします
それぞれがどんなふうに考えているのかをお互いが把握することが大切です。急いで結論を出す必要はありません
- ②家での生活の中で、子どもができていることと、できるようになってほしいことをまとめます
- ③子どもが、学校生活で望んでいることや困っていることを把握します（お話しができなくても、こういう日は機嫌がよいとかこの授業の時は、登校を渋るとか日常感じていることをまとめておきます）
- ④子どもの養育に関して、利用している福祉サービスや利用したいと考えているサービスをまとめておきます（福祉や医療に関する要望も学校が把握することで連携が円滑になります）

<学校と連携して支援するためのポイント>

- ①学校の教育に対して興味・関心をもつ（どんな教育をしているのか、子ども達の様子はどうかなど）
- ②学校から渡されるプリントや連絡帳をよく見る（今、子どもがどんなことをしているのかがわかると、子どもとの会話が広がります）
- ③PTAの活動や研修会等に参加する（特別支援学校には同じ悩みをもっている人が多く集まっています）
- ④学校の教育や子どもの指導について、意見を伝える（小さな疑問でも放っておくと、不安感や不信感へと変わります）
- ⑤学校の中で相談しやすい人を探しておく（担任の先生がベストですが、事情があるときには、学部長や特別支援教育コーディネーター、養護教諭など相談しやすい人を見つけます）

◇ 紹介 ◇

■ 特別支援学校（知的）キャリア教育推進ガイドブック「理解編」

これからの特別支援教育の方向性や就労に必要な力、障害者自立支援法について詳しく紹介。保護者の方にも役立つ情報も数多く掲載しています。

■ 特別支援学校（知的）キャリア教育推進ガイドブック「実践・資料編」

特別支援学校における組織的、系統的なキャリア教育を推進するための実践的な資料を数多く掲載。「勤労観」「職業観」を育てる支援のあり方や学部別、障害別のキャリア教育の方向性等について紹介しています。
*ガイドブックは、岩手県立総合教育センターのホームページからダウンロードできます。

<http://www1.iwate-ed.jp/>